●◆しゃばのしがらみを、仏の願いの中でいただこう◆●

仏の願い

平成 26 年
西雲寺だより
春号（36 号）

宗祖親鸞聖人 750 回大遠忌

初めての方も ぜひお参り下さい

午前 10 時　内陣御修復法要
午後 1 時　おちごさん
午後 2 時　750 回大遠忌法要

バスの時間・駐車場

など 詳しくは
4～6 ページを
ご覧下さい

駐車場が遠いため

「バスのご利用」「乗り合わせ」に

ご協力お願いします

内陣御修復法要
宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要
厳修に当って

お同行の皆様のご懇志によってお内陣の修復も完成し、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌（ごえんき）法要をまつばかりになりました。

お内陣は申すまでもなく、お浄土の荘厳を表わしたものであります。荘厳（しょうごん）とは私たちの眼には見ることのできない仏さまの御徳を眼に見えるように表現したものです。

「浄土和讃」に

安楽仏土の依正（えしょう）は
法蔵願力（がんりき）のなせるなり
天上天下（てんげ）にたぐいなし
大心力（だいしんりき）を帰命せよ

とあります。これは御遠忌のお日中の御修復法要にあげるご和讃ですが、お浄土の荘厳はみな如来さまの願心により荘厳されており、十方諸仏の国の中においても超えすぐれていて、くらべることができないとうたわれています。お浄土は私たち迷いの衆生、苦悩の衆生に本当に安んずることのできる世界、まことのいのちの世界を与えたいという如来の大悲のおこころによって荘厳された世界なのです。私たちはお内陣、または各家庭のお仏壇に手を合わすとき、その如来さまの永遠にまことのおこころにふれさせていただくのです。お浄土は私たちのこころの拠り所であり、還っていくべきいのちの故郷なのです。

宗祖親鸞聖人に出遇う

この度の御遠忌は、親鸞聖人の上に宗祖をつけて、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要といいます。私たち一人一人が宗祖としての親鸞聖人に出遇わせていただく、私の人生にとって五十年に一回の大切な法要なのです。浄土真宗という、私たち凡夫が凡夫のままにたすかっていく仏道を、九十年のご生涯をかけてあきらかにして下さった方として、親鸞聖人に出遇わせていただくのです。親鸞聖人というお方は、実は一宗一派を興す気持ちは全くありませんでした。一生を、良き師法然上人のお弟子の一人として「ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべし」のみ教えこそ、凡夫がたすかっていくまことの仏道であることを、越後や関東のいなかの人々と生活を共にしながら、身をもって実証していかれた方でした。また親鸞聖人は常陸の国の稲田の草庵にお住まいの五十二歳の頃、「大無量寿経」に説かれる本願念仏のみ教えが、一切の衆生が皆平等に救われる唯一の仏道であることを証明すべく、大乗仏教のあらゆる経典を引用して『教行信証』六巻を完成し、世の中に広開されたのでした。このような親鸞聖人のご恩徳に接したお弟子やお同行たち、またその感化をうけた御同行たちが、親鸞聖人こそ本願念仏というまことの仏道を明らかにし、人間としてまことのいのちを尽し、お浄土に還っていかれた方として「浄土真宗」を開かれた宗祖親鸞聖人とお敬いしていったのです。

国宝　親鸞聖人影像
鏡の御影（本願寺蔵）

ともしびを高くかかげて
わがまえをゆく人のあり
さ夜中の道　（甲斐和里子）

これは足利義山（ぎざん）という勧学さんが、年をとり御本山のお役目を辞することのなったとき、御影堂の親鸞聖人のご真影に深々と頭を下げ涙を流しながら親鸞聖人とお別れをしている姿を、娘さんの甲斐和里子さんが詠まれたものです。足利義山という勧学さんにとって親鸞聖人は、七百年前私に先立って本願念仏のみ教えこそが凡夫が救われるまことの仏道であることを、身をもって示して下さった方として深々と仰がれているのです。もし親鸞聖人ましまさずば、私たち凡夫は真暗闇の人生のなかに燈を見い出すことはできないのではないでしょうか。

念仏の歴史にいのちの尊さをいただく

親鸞聖人がお作りになり、私たちが毎朝おつとめしている「正信偈」には、初めに「偈前（げぜん）の文」が置かれており、「正信偈」をお作りになったおこころが示されています。

しかれば大聖（だいしょう）の真言に帰し、大祖の解釈（げしゃく）に閲（えっ）して、仏恩の深遠（じんのん）なるを信知して、正信念仏偈を作りて曰わく

（お釈迦さまのまことのお言葉に帰し、三国七高僧の論釈をいただいて、仏恩の深遠なることを知ることができました。よって正信偈に曰く）

私たちは何気なく、お正信偈をあげさせていただいていますが、正信偈は親鸞聖人が弥陀の本願に遇って知らされた深い仏恩の世界を偈にして下さったものです。お釈迦さまのまことのおことばとは、弥陀の本願、つづめていえば「念仏申して、我国に生まれてくれ」ということです。親鸞聖人は二十九歳のとき、比叡山を下りて吉水の法然上人のもとに行き、法然上人の「ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべし」のお言葉によって弥陀の本願に出遇われたのです。親鸞聖人はその時の決定的な出来事を

愚禿釋（ぐとくしゃく）の鸞、建仁辛酉（かのとのとり）の暦、雑行（ぞうぎょう）を棄てて本願に帰す

とはっきり述べられておられます。回心といわれますが、自分の力を拠り所として生きる親鸞聖人から、本願他力によって生きる親鸞聖人へと二度目の誕生を遂げられたのです。

親鸞聖人は後に弥陀の本願に帰することができた深いよろこびを『教行信証』で次のように述べておられます。

ああ、弘誓の強縁（ごうえん）、多生にも値（もうあ）いがたく、真実の浄信、億劫にも獲がたし、たまたま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ

（われわれ凡夫を目覚めさせ、救いとらねばやまないという如来のご本願は、いくたび生を重ねても容易にあえるものでなく、まことの信心はどれだけ長い時を経ても獲られるものでない。たまたまお念仏の信心を獲たならば、遠く宿縁を慶ばさせていただかなければならない）

次に大祖の解釈に閲してとありますが、大祖とはインド、中国、日本の七人の高僧方、これらの高僧方が書かれた『大無量寿経』をはじめとする浄土三部経の論釈に閲することができたことを悦ばれているのです。七人の高僧方とは、龍樹、天親のインドの祖師方、そして曇鸞、道綽、善導という中国の祖師方、そして源信、源空と日本の祖師方、三国の七高僧です。これらの高僧方は、親鸞聖人が本願に遇うたところから見えてきた方々です。七人の高僧方は、いずれもインド、中国、日本、それぞれの地域、それぞれの時代を、それぞれの時代の業、それぞれの地域の業を抱えて生きている人々に弥陀の本願に目覚めしめ、念仏申すことを勧めて下さった方々です。親鸞聖人は本願に帰したところに、インド、中国、日本の三国にわたって、お念仏に生きお念仏に救われていった人びとを生み出したお念仏の歴史というか、広い世界が見えてきたのです。親鸞聖人が「たまたま行信を獲ば遠く宿縁を慶べ」といわれるのは、自分の前に開けてきた念仏の歴史、それらが深いご縁となって今本願に目覚め、帰することができたと深い慶びを述べておられるのです。

私たちがお念仏に遇うというのは個人的なことでなく、個人的ないのちを破って、私にまで至り届いて下さった仏法の歴史、念仏の歴史の中に自分を見い出すのです。そこに深い仏恩を知り、またいのちの尊さ、深さが知らされるのです。

帰敬式（おかみそり）について

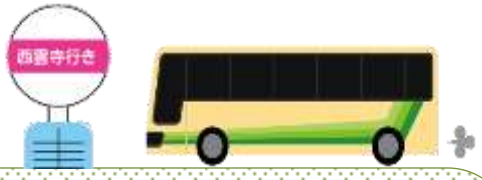
今回の御遠忌法要には六十八名の方がおかみそりを受けられます。おかみそりを受けることはお釈迦さまの釈の一字をいただいて、仏さまの子供、仏弟子にさせていただくことです。仏法を生活の依り所とし、仏法聴聞に心がけて生活させていただくのです。具体的にはおかみそりを受けることは三宝に帰依することだといわれます。三宝とは仏、法、僧の三つの宝です。仏とはお釈迦さま、法とは南無阿弥陀仏、僧とは仏法に生きる人、お念仏をいただいて生きる御同行御同朋（おんどうぎょうおんどうぼう）のことです。仏法僧を私にとって最も尊いものと見出しお敬いしていくのです。そのなかでも、お念仏申している人々を御同行御同朋と見出し、尊敬していくことが最も大切なことと思われます。

（住職）

750 回大遠忌　交通のご案内

西雲寺行バスのご案内

いつもより 30 分早く出発します



放送会館前 8:20 発 →東別院前→工大温泉前→西安居
坪谷 8:30 発 →西別所 →宿堂 →大矢 →風尾
常森 8:30 発 →国見 →鮎川 →小丹生 →畠中
（帰りは夕方 5 時頃にお寺を出発します）

駐車場が遠いためお参りの際はぜひバスをご利用下さい

駐車場のご案内

（後ろの地図を参照下さい）

遠くて恐縮ですが誘導に従って駐車下さい

参拝者駐車場 ― お寺より奥（二ツ屋町付近）**になります**

おかみそり用駐車場 ― お寺より奥（二ツ屋町付近）になります

お稚児さん用駐車場 ― 県道沿いになります

※稚児行列のため、お寺の門前などいつもの場所には駐車できません。
※駐車場所から遠い場合、お寺まで武周の方が送り迎えして下さいます。
※お稚児さんの安全確保のため、11 時～16 時まで武周の村道は通行止めになります。入庫も出庫もできませんのでご了承下さい。
※途中でお帰りになる場合は、車を停める前に係員までお申し出下さい。
※通行止めの間にお参りに来られる場合は、県道に駐車いただいた上、学校から出るお稚児さん用のピストンバスをご利用下さい。

殿下地区内の方へ

かじかポッポをご予約の上ご利用下さい

料金は無料です☆（予約 98-3939）

※県道沿いは西雲寺のバスもご利用下さい

750 回大遠忌　日程のご案内

4 月 27 日（日）　10 時より 17 時まで

10 時　11 時　12 時　13 時　14 時　15 時　16 時

御内陣（おないじん）修復法要	おとき	庭儀式（ていぎしき）おちごさん	宗祖親鸞聖人 750 回 大遠忌法要（だいおんきほうよう）	記念撮影
感謝状贈呈 佐野明弘師（加賀） 法話二席 おつとめ	お弁当が出ます	約２００名	恩徳讃斉唱 総代挨拶 住職挨拶 法話一席 ご本山挨拶 おつとめ	どなたさまも

※朝 7 時半から帰敬式（きょうしき）（おかみそり）が行われます。
※お稚児さんの着付け場所は大変な混雑が予想されます。
　付き添いの方はぜひお寺の法要にお参り下さい。
※午後からのおつとめは、正信偈 3 首引です。
　3 年前ご本山のご遠忌でいただいた本を使います。
※最後に記念撮影をします。どなたさまもぜひご一緒に。

4 月 26 日（土）　19 時より 21 時まで

※御遠忌の前夜に、声を合わせて「行譜正信偈六首引」をおつとめします。どなたでも結構です。お気軽にお参り下さい。
※終了後、御恩に感謝する気持ちを込めてお酒を囲みたいと思いますので、できるだけ乗り合わせてお越し下さい。

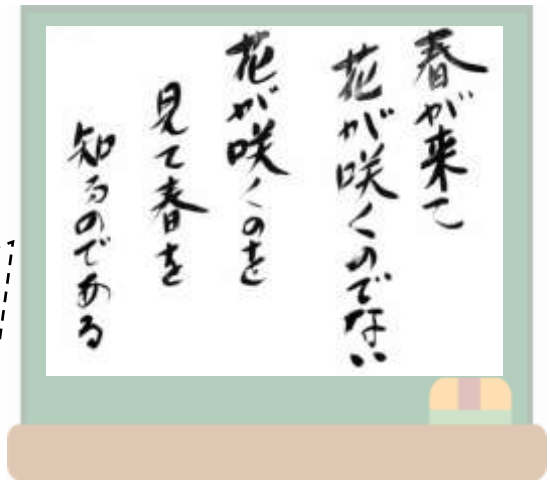
いつもお参り下さる方も
いつもは遠慮なさる方も

50 年に一度です
ぜひ一緒に
お参り下さい

御遠忌　案内地図

境内には桜や沈丁花や梅の花が咲き、ふくよかな香りをただよわせています。今年も春が来たというよろこびを感じます。確かに科学的には春が来たから花が咲くのです。しかし私たちの感覚からすれば、花が咲いたのを見て春が来たのを知るのです。そこにいのちを感じます。冬には葉を落としてじっと寒さに耐えている草花が、春になると芽を出し花をつける、不思議にもそのようないのちが与えられているのです。私たちのいのちのなかにも、人間としてまことのいのちを生きたいという願いが与えられているのではないでしょうか。（住職）

山門掲示板



発　行

真宗仏光寺派 専念山 西雲寺（さいうんじ）

住職　護城一寿
筆頭総代　吉川芳弘
編集責任者　護城一哉
〒910-3523　福井市武周町５－２
電話　0776-97-2138
メール　kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
ホームページ　http://arukou.net/

封筒は切手を貼らずに投函できます。
お参りした感想などお気軽にお寄せ下さい。